

ほりて、御すきかげのおはしまさぬは、あやしとおぼしめしけるに、まいりつかせ給ひて、御車か  
きおろしたれど、えしらせ給はず、いかにと思へど、御前ども、えおどろかしまうさで、只さぶら  
ふなめるに、入道殿おりさせ給へるに、さてあるべきことならねば、轍のとながらたかやかに、や  
やと御扇をならしなど、せさせ給へど、おどろきたまはねば、近くよりて表御袴のすそをあら  
らかにひかせ給ふおりぞ、おどろかせ給ひて、さる御用意はなはせ給へれば、御櫛かうがいか  
くし給へりける、とりいで、つくろひなどして、おりさせ給ひけるに、跡さりげなくきよげにお  
はしましければ、さばかり醉なん人の、其夜はおきあがるべきかは、それぞこの殿の御上戸はよ  
くおはしましける、その御心のなををはりまでも、わすれ給はざりけるにや、御病付てうせ給ひ  
ける時、西にかきむかせたてまつりて、念佛申させ給へど、人々のす、めたてまつりければ、濟時  
朝光などもや、極樂にはあらんずらんと、仰けるこそあはれなれ。

〔續古事談二〕右大將通房、臨時祭ノ舞人セラレケルニ、宇治殿ニテ拍子合アリケルニ、人々マイ  
リアツマリテ、舞ノ師武方ニ纏頭セラレケリ、盃酌カサナリテ人皆醉ニケリ、播磨守行任朝臣ヲ  
殿上人ノ座ニメシテ、酒ノマセラレケルニ、オホキナル鉢ニテ、十盃ノミタリケリ、事ノ外ノ大飲  
トゾ人々云ケル、

〔古事談六亭宅諸道〕敦光朝臣愛酒之間、不斷置酒於裏居棚、或夜寢後、子息弟成光放本鳥裸形取之、爰  
長光連句ヲ云懸、其詞云、酒是正衣裳、成光無程云、盜則亂禮儀云々、父朝臣空寢之間聞之、不堪感  
落涙云々、

〔三愛記〕此ごろ世にひとりの居士あり、儒釋道によらず、其形自然にして、九重の中に年を送りし  
が、ちかきころほひ、つのくにゐなの、わたりにいほりをむすびて夢と號し、みづから牡丹花を  
なとせり、みにおはぬやうにきこえ侍れど、萬物一體のことはりをおもふにや、つねのことぐさ